

# 先見経済 SENKEN KEIZAI

Since 1938

Apr.2010

# 4 15

4月15日号

先見TOP interview

## 人間の脳は 競争を 求めています

医学博士/脳神経外科医

### 林 成之

新連載

井徳正吾  
井熊均  
鎌田慧  
小松義夫

好評連載

和田努  
境野勝悟  
横田尚哉  
今井激  
沼崎益夫  
高橋陽子

特集

# 拡大する「ネット貿易」 すぐそこにある中国市場

清話会セミナー講演録

## 二宮靖志 中井宏次 江見雅博

社員の夢を実現する人事戦略で不況を乗り切る！  
笑いの経営的効果  
インド洋上で、私たちは何を想ってきたか





# 人間の脳は競争を求めていません

「違いを認めて、ともに生きる」仕組みこそ企業生き残りの秘訣

聞き手▼山口哲史 株式会社フロ・アクティブ代表

ゲストは、脳における日本の第一人者ともいえる日本大学の林成之教授。脳に損傷を受けた数多くの人々を社会復帰させた氏は、「『ゴッドハンド』を持つ男」として世界的な評価も高い。ビジネスと脳の関係について話を聞いた。

**脳は効率重視を求めている**

**山口** 従来の成功体験や発想では通用しない時代に入りました。しかし、年齢にかかわらず、過去にとらわれ、そこから抜け出すことができない人が多いようです。

**林** これまで社会は、経済優先のシステムをつくり上げてきました。そのなかで重視されたのは「効率」だった。しかし、実のところ、人間の脳は効率を求めていないのですよ。「地球上にいる皆が幸せになって生き残りたい」——これが人間の脳が望んでいる仕組み、すなわち本能なのです。

**山口** 人は本能として勝ち負けを望んではいない、ということですか。

**林** 人が物事を考える際、複数の神経核が連動して考えが生み出されます。そのため、お互いの機能の違いを認めながら、ともに生きることを基盤に思考が生まれ、それが本能になっています。このことは、人類が地球上で生き残っていくための生命科学の法則でもあるのです。

**山口** なぜ、そう言い切れるのでしょうか。

**林** 過去、何百億もの生命体が地球に生存し、何億もの生命体が絶滅しました。絶滅した生命体の共通項は、近くにいるものと仲良くしなかったこと。ですから、人の脳は本能的に勝ち負けを望んでいないのです。

意見の異なる人でもそれを認め、ともに幸せになる考えを生み出す能力を脳は持つていま





## 先見TOP interview

with 医学博士/脳神経外科医

# 林 成之

ホスト

## 山口哲史 (やまぐち・てつし)

1961年兵庫生まれ。関西学院大学商学部卒業後、リクルートなどを経て90年、現(株)プロ・アクティブの前身のフィールド・アクティブを設立。竹100%でできた繊維など自然でピュアなエネルギーを活用した「人を自然に輝かせる(ラディアンス)」力のある健康、美容商品の企画・販売を手掛ける。社内外ともに「ガッツさん」の愛称で親しまれている。

<http://www.pro-active.co.jp>

す。勝ち組、負け組の社会は、脳が望むシステムと違うことをやっているのですよ。

山口 ですから、今の世の中に対し、皆、居心地の悪さを感じているのでしょうかね。

林 効率を優先するなかで、マニュアルが重視されるようになりました。ですが、これも脳にとってよくないものです。

山口 なぜですか。  
林 そもそもマニュアルとは、他人が考えたものです。人間の脳は、物事を理解し面白いと感じたとき、自分でやりたいという気持ちが生まれ、そこから考える脳機能が生まれてきます。それを自己報酬神経群というのですが、自分で考えやり遂げる

ことを脳は嬉しいと感じるので、人のために行動するのも、自分が嬉しいから。そもそも、人は人、自分は自分という仕組みになっていません。ところが、今では勝ち抜くことしか考えないから、「マニュアル通りやりなさい」となってしまう。自分でやりたいという自己報酬神経群の機能を止めているんですよ。

山口 マニュアルがないと行動できない人がいるのも、そうした影響があるのですね。

林 自分でやりたいという気持ちの後に考える脳機能が生まれるので、他の人が考えたマニュアル通りにやっていると、どうしても自分で考える能力が低下してきます。

山口 どうすればよいのでしょうか。  
林 それは「違いを認め、ともに生きる」仕組みを高めてゆくことです。会社なら、トップがすべてを決め社員が命令通りに動くようなことをやめる。トップは方向性を決め、現場実務を取り仕切る人たちは、自分の専門性を磨き、互いに違いを認めながら尊敬し合ってともに行動していく。

山口 尊敬、ですか。  
林 最近では尊敬する力が失われ

ています。人間の気持ちは、同じ考えを生み出す同期発火によって伝わっていきます。その神経活動を起こす条件は、①相手を好きになる、②気持ちを込めて話を伝える、③相手を尊敬する、という三つ。この尊敬がなければ、人に気持ちは伝わらないのです。

山口 確かに、会社において上も下も尊敬というものが失われていますね。  
林 だから企業においても、部長や課長は、どれだけ手のかかる部下がいたとしても、「こいつのお陰で、自分は力を持った

出てくるでしょう。もつとも一つも出てこなければ堪え忍ぶしかありませんが(笑)。とにかく、相手に求めずに、自分のレベルアップを図っていかなくてはいいけません。

脳も企業も「間引き」が必要

林 人間の脳は、3歳までは神経細胞の数が増えていきます。ところが、4〜7歳の間で、ダメな細胞を「間引き」ことによって、その後、学習に必要な神経シナプスが増えてゆく仕組みになっています。

山口 間引きは自然に起こるのですか。  
林 しつけや教育によって悪い習慣をやめる。会社でも、この間引き的なことが必要なのではないですか。  
山口 その通りです。でも、これが難しい。やり方を間違える

## 勝ち組・負け組の社会は脳が望んでいないシステム